

1 ブロイラー農場における鶏コクシジウム病対策

新潟県中央家畜保健衛生所

○渡邊章子権田寛子

平成25年6月から11月までに、22,500羽規模のブロイラー農場（3鶏舎、年5回導入）において、20日齢前後から鶏コクシジウム病及び鶏壊死性腸炎による死亡が増加。鶏舎毎の専用長靴の設置とオールアウト後の鶏舎消毒の徹底を実施するが、その後の導入でも発生を確認。オールアウト後の鶏舎内のコクシジウムオーシスト除去が不完全であるため、ワクチンによる防御免疫を獲得する前に感染することが推察。抗菌剤に頼らない対策を検討するため、立会によるオールアウト後の鶏舎内消毒方法及び導入3日後のコクシジウムワクチン投与方法の確認、並びにワクチン投与後の鶏舎内飼養状況を調査。調査内容を踏まえ、床のひび割れの修繕継続及び水洗の徹底、オルソ剤による連続感作方法の導入による消毒プログラムの変更、消毒薬の散布方法を改善。また、ガード開放後の鶏舎壁とヒナの接触を避けることを目的に鶏舎壁周囲にビニール及び板を設置。併せて鶏壊死性腸炎対策として給水管への二酸化塩素投与を再開。結果、平成26年度は平成25年度と比較して鶏コクシジウム病と鶏壊死性腸炎による死亡は減少。出荷平均体重は2.900kgから3.045kgに、1日増体量は59.2gから61.9gに増加。飼料要求率は1.934から1.886に改善。廃棄率は0.91%から0.75%に減少。農場主の衛生管理意識も向上した。